

「痛み止め(鎮痛薬)」を選ぶのは難しい…

(頭、生理、歯、筋肉、咽頭(のど)などの痛みを使う「痛み止め」のお話です)

＜ 市販されている痛み止めの製品に、どのような働きを示す成分が入っているかを示した例です ＞

働き (成分名)	製品 A	製品 B	製品 C	製品 D	製品 E	製品 F	製品 G	…
痛みを抑える働き (成分名：アセトアミノフェン、イソプロピルアンチピリン、エテンザミド、アスピリン、ロキソプロフェンナトリウム水和物、イブプロフェン など)	○	○	○	○	○	○	○	
痛みを抑える働きを助け、痛みを和らげる働き (成分名：フロムワレリル尿素、アリルイソプロピルアセチル尿素 など)			○	○	○	○	○	
痛みを抑える働きを助け、痛みを和らげる働き (成分名：カフェイン、無水カフェイン、安息香酸ナトリウムカフェイン など)				○		○	○	
胃を保護する働き (成分名：合成ヒドロタルサイト、酸化マグネシウム、合成ケイ酸アルミニウム 乾燥水酸化アルミニウムゲル など)		○			○	○		
疲労回復を助ける働き (成分名：ビタミンB ₁ 、ビタミンB ₂ など)							○	

○：製品が示す働き

痛みを抑える働きのみ示すもの(製品A)や、痛みを抑える働きに加えて胃を保護する働きも示すもの(製品B)など、多くの種類がありますね。

同じ働きを示すものでも、製品によって含まれる成分の量が異なる場合もあります。

多くの製品の中から**症状や体質に合う製品**を選ぶことは、実は大変難しいのです。

初めて痛み止めを買うときや、以前に使った製品が合わなかった場合は、

薬剤師などに相談し、症状や体質に合う薬を選んでみましょう！



痛みを抑える働きの アスピリン や ロキソプロフェンナトリウム水和物、イブプロフェン は、**15歳未満の人は飲むことができません！**

注意

生理痛以外のお腹の痛みには、痛み止めは使いません！

生理痛以外のお腹の痛みを使う製品も「痛み止め」と言うことがありますが、頭痛や生理痛などに使う「痛み止め」とは成分が異なり、同じではありません。

生理痛以外のお腹の痛みに対し、頭痛や生理痛などに使う「痛み止め」を飲んではいけません。

健康やお薬などについて、気になることがある方は、相談薬局・出張相談会で薬剤師に気軽にお尋ねください。

《 出張相談会 保健室に学校薬剤師が来ます 》
ドラッグレターの内容、医薬品や健康、薬物乱用などについて、相談・聞きたいことがある人は保健室まで！
7月13日(火) 16時30分～17時30分

作成・発行元 北陸大学薬学部
准教授 大柳賀津夫(学校薬剤師)
准教授 岡本晃典(薬剤師)
5年生 南平沙和香

